

太融寺だより

平成31年号

発行所 高野山真言宗 佳木山 太融寺
 〒530-0051
 大阪府北区太融寺町三十七
 ☎ 06-6631-1548
 06-6631-1548
 発行人 麻生 祥光
 発行日 平成三十一年一月一日

「布施のこころ」



麻生 祥光

二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピック開催が近づいてきました。思い返すと、五年ほど前、オリンピックの開催地を決めるIOC総会で、滝川クリステルさんが「おもて・な・し」をテーマに最終プレゼンテーションをおこなったのは記憶に新しいです。

「東京では、皆さまをユニークにお迎えいたします。日本語では、それを「おもてなし」という言葉で表現いたします。それは、見返りを求めないホスピタリティの精神です。それは先祖代々受け継がれながら、現代の日本の文化にも深く根付いています。『おもてなし』という言葉は、いかに日本人が互いに助け合い、お迎えするお客さまのことを大切に

にするかを示しています」と。

この「見返りを求めないホスピタリティの精神」こそ、まさに布施の精神です。布施といえ、僧侶に対する仏事の謝礼を示すことが多いですが、本来は、悟りをめざす者が行う六つの修行の一つで、人に施しをすることを勧めています。それは、決して金銭や物品の施しだけに限ったことではありません。仏教では、三つの施しの方法を三施と云います。

まず、一つ目が「財施」。財物や衣類、食物などの施しです。二つ目は「法施」。人々に教え説いて聞かせることです。三つ目が「無畏施」。相手の恐怖不安を取り除き、畏れなく、安心を与えることです。

ところが、これらの施しをしても、残念ながら「布施」にならない場合があります。「これだけ親切にしたのだから、代わりにこれくらいのこととはしてくれらるだろう」、「こうしたらお礼を言ってもらえるのではないか」など、与える側が、受け取る側からの見返りや報酬を求める心が生じては、どれは代償にすぎず、布施にはならないのです。また反対に、受け取る側が「もっと欲しいな。あっち

の方がいいなあ」

と欲望にとらわれても同じです。さらに、与える側と受け取る側、ともに欲にまみれていなくても、わたす物自体が盗品など悪い行いから手に入れたものであれば、布施とはなりません。つまり、与える人、受け取る人、わたす物それ自体、これら三つが全て清らかでなければなりません。このような清らかな心がけて行ってこそ、本当の布施と云えるのです。

先日、二〇二五年に大阪で万国博覧会が開催されることが決定しました。一九七〇年に「人類と進歩の調和」とのテーマで開かれ、六四〇〇万人を超える来場者を迎えた大阪万博から五十五年。今回のメインテーマは「いのち輝く未来へのデザイン」、そしてサブテーマは「多様で心身ともに健康な生き方」です。心の健康を計るバロメーターは、相手を思いやる心、おもてなしの心ではないでしょうか。大阪を訪れる世界中の人々に、心の健康をどのようにデザインされるのか、今から楽しみです。



行事紹介

節分星祭厄除け祈願

四季それぞれの変わり目を節分といいますが、特に立春前日の節分は年越しの意味も含め、大きな節目です。

私達の人生は、毎年変化する星の巡りによって吉凶が決まると古来より言われております。特に厄年に当たる年齢の方は、体調や生活環境の変化が起こりやすい時期でもあります。そこで年の節目である節分に、当山の仏様をはじめ、それぞれの星の神様に御供養することにより、厄を除くご加護を賜わります。

この厄除祈願法会は弘法大師がお伝えになられた属星供（星祭）という秘法によりおつとめいたします。

ご祈願をお申し込みの方には御札をお授けいたします。御札はお仏壇など浄所にて一年間大切に祀りください。

星の巡りは毎年変わりますので、毎年新しい御札をお祀りされますことをお勧めいたします。



受付 一月上旬より
日時 二月三日 午後四時より
場所 護摩堂

祈願料 千円 紙の御札（一名 個人のみ）
五千元 木の御札（個人家族会社等）

※当日は福豆を準備してあります。
※申し込まれた御札は、後日郵送いたします。

彼岸施餓鬼供養法会

春分の日、秋分の日を中日として、その前後三日間を合わせ、それぞれ計七日間をお彼岸とよんでいます。この七日間は、迷いや悩みのある此の岸から、安らかな悟りの彼岸へと到るための修行をする大切な期間です。



当山では、お彼岸に合わせて施餓鬼法会をおつとめしております。分け隔てのない広大な施しの心を起こして、各家の御先祖は勿論、三界万霊等、あらゆる多くの諸霊に幅広く御供養をいたします。この尊い施しの心でおつとめする法会にお参り頂くことこそ、真にお彼岸の修行と云えるでしょう。

お申し込みに際しては、代表の施主様を一名お決めいただき、御供養される一家の先祖代々か、故人のお戒名をお伝えください。

法会当日は受付が大変混雑いたしますので、事前のお申し込みをお願いいたします。

受付 春 二月下旬より 秋 八月下旬より
日時 春 三月十九日 秋 九月二十一日
春秋共に午後一時より

場所 本坊
供養料 一霊 三千元
(番号札受付は午前八時より)

※施餓鬼法会は春秋のお彼岸の他、八月十九日の夏季大施餓鬼法会もございます。

月例行事

一願不動護摩祈禱（於、護摩堂）

八日 午後二時 午後四時
十八日 午後二時 午後四時

二十八日 午前十時 午後二時 午後四時
真言密教の秘法により、無事息災、身体健全、商売繁盛、良縁成就など、所願成就のご祈禱をいたします。

観音経読誦会（於、本堂）

十八日 午後一時

本堂ご本尊千手観世音菩薩の御前で、観音経をお唱えいたします。読経の後、内拜できます。貸出用の経本も準備いたしております。

大師堂塔婆廻向

二十一日 午前十時～正午

ご先祖の霊を経木塔婆（一霊 五百円）にて供養いたします。御供所で受付をすませ、大師堂内へお進み下さい。

廻向(法事・祥月命日)申込

ご法事・祥月命日の廻向で土、日、祝日をご希望される方は予約が集中しますので、ご希望の日程が決まりましたら、出来るだけ早く太融寺寺務所までご相談ください。

ご法事は、太融寺にて執り行うこともできます。(本坊にて食事可)

ご祈祷のご案内

太融寺では、皆さまの無事息災、身体健康、商売繁盛、事業繁栄、良縁成就、入試合格など、所願成就のためのご祈祷を毎月八、十八、二十八日の月並護摩をはじめに行っています。

事前にお申込み頂きますと、願主のためだけに修す特別一座護摩、太鼓と読経による祈願、車の前に祭壇を構えての交通安全祈願、その他出張によるご祈願もいたします。

日時、所要時間、祈祷料などの詳しくは、寺務所までご相談ください。

写経 写仏の会

写経では、般若心経を書写します。また、写仏では、お手本の仏さまを写します。心しずかなひとときを過ごしませんか。

・開催日/毎月一日と第二土曜

※元日及び八月はお休み

時間/午後一時～五時閉場

※随時受付します

場所/本坊 大講堂

参加費/千円

※奉納料、

用紙代等を含む

道場は椅子席です

道具はお貸し致します。

筆のみご持参ください。

筆の販売も致しております。



一願堂 提灯献燈

お不動さまの御恩徳に感謝し、常に明るく心で正しい道を歩むことができる智慧を授かりますよう、真心の一燈を献じましょう。

一、提灯には施主のお名前を明記いたします。

一、提灯は一年間献燈いたします。

(二月一日から十二月二十八日まで)

一、奉納料は一基、一万三千元です。



華道高野山大阪教室

高野山に伝わる伝統華、盛花、自由花を学びます。

・主 催/華道高野山近畿司庁

・稽古 日/月二回 第一・三水曜日

・月 謝/七千円(花材費含む) 午後一時～五時 ※月により変更あり

・お問合せ先/華道高野山近畿司庁(太融寺内)

☎〇六―六三二―一五四八〇



御詠歌大阪教室 歌声ひろば

今まで御詠歌にふれたことのない方を対象に、金剛流御詠歌を学びます。

・主 催/金剛流近畿連合本部

・稽古 日/月二回 第二・四金曜日 午後一時半～四時 ※月により変更あり

・月 謝/三千元

・お問合せ先/金剛流近畿連合本部(不動院内)

☎〇七四五一五二―一六六九

大阪御詠歌舞踊教室

癒しの旋律に合わせて踊る舞踊で心と体をリフレッシュしてください。

・主 催/近畿司庁

・稽古 日/毎月一回 木曜日 午後一時半～三時半

・月 謝/千五百円

・お問合せ先/近畿司庁(不動院内)

☎〇七四五一五二―一六六九

葬儀から満中陰まで

故人が亡くなられてからの四十九日間を中陰とよびます。その間、仏さまの世界に向かうため、七日ごとに各仏さまのお導きのもと修行をなさいます。

葬儀で導師より戒名を授かり仏弟子となられ、七日ごとに、お不動さま、お釈迦さま、文殊さま、普賢さま、お地藏さま、弥勒さま、お薬師さまのご加護を賜わりつつ、無事に仏さまの世界に到達されるときが、中陰が満たされる、すなわち満中陰です。仏さまが慈悲の心で故人をお導きになられ、ご本人も仏さまの世界へと精進努力されているこのとき、残された私たちにもこの世でできることがあります。それは七日ごとの仏さまを礼拝し、真心を込めて故人の成仏をお祈りすることにほかなりません。

成仏を祈る方法は難しいことはありません。それは日頃よりお仏壇になさっている読経とお供えです。お寺からお伺いして読経する七日参りにはそのような大切な意味があります。ご家族の誰かが交代しながらでもなるべく都合をつけたいものです。また、お供えにはそれぞれ大切な意味があり、それらは仏さまの御心です。その仏さまの慈悲の心を形にしたものがお供えです。お灯明を点して迷わない智慧を授かり、お香を焚いて精進努力



の心を授かり、ご飯を供えて禅定の安らぎを授かり、お茶を供えて施しの心を授かり、お花を供えて耐え忍ぶ心を授かります。

これらひとつひとつのお供えが成仏への祈りそのものです。この祈りの中に故人へのこれまでの感謝の気持ちを込め、満中陰までをお過ごしください。

寺子屋ほっと



法話って聞けますか、仏教についてわかり易く知りたいですなど、さまざまなお声を頂きます。当寺では仏教・文化・くらしの講座「寺子屋ほっと」（月1回土曜日）を開講しています。ネットで予約をしていただければ、檀信徒に限らず、どなたでも、どの月からでも参加することができます。（初回登録料2000円、一講座1000円～）。

平成31年度は、仏さまの解説、地獄と極楽のお話、日本のしきたり、薬膳料理などについての講座をいたします。

詳しい講座内容や申込方法については、「寺子屋ほっと」の案内パンフレットかホームページ（<http://www.taiyuji.com/hot/>）をご覧ください。皆さまのお越しをお待ちしています。

